

科目名	作業療法評価学演習Ⅲ（精神障害）	担当教員	松田 竜幸※ 泊り 由希子※ 森元 隆文※ ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	------------------	------	---

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR22ABDE	①、②、③、④					

科目概要	作業療法評価学（精神障害）を踏まえて、事例を想定し精神障害における評価過程を学習する。精神科領域の評価においてはかかわり行為と切り離せないため、対象者との関係のとりかた、対象者に不利益とならない治療的配慮、そして必要な情報の収集など、混在したかかわり行為についても検討し、その上で情報の収集としての対象者観察、面接技術、作業遂行のチェックや各種精神機能、心理状態、生活状況、自らの語りを受けとめる評価スケールの概要や使用方法について演習を通して体験し習得する。
学習目標	① 精神障害領域でどのような評価が行われているか説明できる。 ② 評価方法並びに意義や項目の特性を説明できる。 ③ 評価結果の分析に関する情報整理や考察を進められる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	面接	面接による関わりと情報収集について	模擬的な相互交流を通してかかわり行動や情報収集ならびに適切な対応を体験し面接について理解する。	松田 泊り
2	観察	観察による情報収集とその整理について	模擬的な相互交流を通して観察の視点を理解し、体験につなげる。	松田 泊り
3	症状評価尺度	精神障害各種の症状評価尺度について	観察法の発展として各種の症状評価尺度について学び理解する。	松田 泊り
4	社会機能評価(1)	社会機能の評価とその尺度について	各種社会機能の評価尺度の構造と内容、項目について理解する。	森元
5	社会機能評価(2)	社会機能の評価について	社会機能の評価尺度を用いた評価を体験し、得られる情報の整理ができる。	森元
6	認知機能評価(1)	認知機能の評価とその尺度について	各種認知機能の評価尺度の構造と内容、項目について理解する。	森元
7	認知機能評価(2)	認知機能の評価について	認知機能の評価尺度を用いた評価を体験し、得られる情報の整理ができる。	森元
8	クライアントとの協力的評価(1)	クライアントとの協力的な評価とその尺度について	協力的な評価の尺度の構造と内容、項目について理解する。	森元
9	クライアントとの協力的評価(2)	クライアントとの協力的な評価について	協力的な評価の尺度を用いた評価を体験し、得られる情報の整理ができる。	森元
10	他部門情報	他部門情報の入手とその整理について	他部門情報の優先度や重要度を理解し、情報の整理ができる。	松田 泊り
11	作業観察	作業観察について	模擬的な相互交流を通して作業観察の視点を理解し、体験につなげる。	松田 泊り
12	情報のまとめ、焦点化	情報のまとめと焦点化について	入手した情報の優先度や重要度をふまえての情報の整理、まとめ、重要点への焦点化ができる。	松田 泊り
13	目標設定	目標の設定について	入手した情報の優先度や重要度をふまえて対象者に即した目標の設定をすすめることができる。	松田 泊り

14	プログラム立案	プログラム立案について	入手した情報の優先度や重要度をふまえて対象者に即したプログラムの立案ができる。	松田 泊り
15	まとめ	一連の評価実践のまとめ	評価によって得られた情報についてのまとめや見解の相互交流を通し、自分達の打ち出した結果の統合解釈ができる。	松田 泊り
評価方法		筆記試験(100%)		
課題に対するフィードバック		授業をとおしてフィードバックする。		
教科図書		教員作成教材		
参考図書		山根寛『精神障害と作業療法 新版』三輪書店、2017年 上野武治『標準理学療法・作業療法学 精神医学第4版増補版』医学書院、2021年 香山明美、他・編『生活を支援する精神障害作業療法—急性期から地域実践まで— 第2版』医歯薬出版株式会社、2014年 石井良和、他・編『精神障害領域の作業療法』中央法規、2010年 早坂友成・編著『精神科作業療法の理論と技術』メジカルビュー社、2018年		
学習の準備		復習：講義で理解できた内容と、理解が不十分な内容を整理し、自主学習、担当教員への質問の準備を行う。(45分)		
オフィスアワー		常勤講師は毎週水曜日 16:20~17:50。その他は、随時対応する。 非常勤講師は、講義の前後とする。		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験		松田竜幸、森元隆文、泊り由希子は、民間病院で精神障害領域における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。		